

—2022—

# 令和4年度事業報告

自 令和 4年4月 1日

至 令和 5年3月31日

令和5年6月17日

公益社団法人

国民文化研究会

事務所 〒150-0011 東京都渋谷区東1-13-1-402  
TEL 03-5468-6230 FAX 03-5468-1470

# 令和4年度事業報告

公益社団法人 国民文化研究会

## はじめに

本会主催の「全国学生青年合宿教室」は、昭和31年8月、鹿児島県・霧島で第1回を開催して以降、本会の基幹事業として毎年欠かさずに開催して、本年度は67回目を迎えました。過去2年間はコロナ禍の中で宿泊研修を断念せざるをえず、地方会場も含めて日帰り研修の形で開催しましたが、今年度は主会場（東京都八王子市）において3年ぶりに宿泊研修を行いました。当初予定の2泊3日の日程が、コロナ第7波の拡大によって1泊2日に変更せざるを得なくなりましたが、わずか一泊でも参加者相互の距離感を縮めることができ、相互の交流と学びが深まったのはありがたいことでした。この主会場での講義記録を中心とした合宿レポート『日本への回帰』第58集を刊行し、会員、賛助者をはじめ多くの方々にお送りしました。また、恒例の「国民文化講座」を盛況のうちに開催したほか、関東、関西、九州等の各地の学生及び社会人を交えての常設の研修活動（輪読会、短歌の会、テーマ毎の研究会等）も、前年度と同様のコロナ禍の中、オンライン形式を利用しつつ展開しました。これらの活動は、それらの会に参加する者同士が、お互いに切磋琢磨し学問する場であると同時に、多数の方々を対象とした伝統文化の普及や思想啓発のための活動に繋がってきています。

一方、内政・外交・教育の各方面では益々問題が錯綜していますが、私ども会員一同は、心を新たにして、本会の目的である「日本の長い歴史の中に蓄積された祖先の足跡を学び、国民各層への伝統文化の普及に努めるとともに、国内外で活躍する有為な青年の健全な育成を推進し、もって学術・文化の振興並びに豊かな人間性の涵養に寄与する」（定款の目的）ことに向かって、地道に邁進しておりますことをご報告いたします。

以下、当該年度の年間事業をご報告申し上げます。

## I. 研修事業

### 1. 年次研修会としての「合宿教室」の開催

#### ① 主会場（東京・八王子、大学セミナーハウス）及び地方会場

主会場においては、当初は2泊3日の合宿を計画していましたが、コロナ禍の情勢悪化により、9月3日（土）～4日（日）の1泊2日の研修として実施しました。

今回合宿では、日本政策研究センター代表の伊藤哲夫先生による講義「今、日本人に問われている歴史的課題—激動する国際情勢の中で—」と質疑応答、及び小柳左門氏による講義「皇室に受け継がれる慈悲の御心」の二つをメイン講義として、その他、西郷隆盛や吉田松陰を取り上げた歴史・古典講義や学生・青年による読書会体験や芸術鑑賞体験をもととした発表が行われました。また、これらの講義・発表を踏まえた班別での研修を実施して、さらに理解が深められました。例年の合宿教室の重要なテーマである短歌研修についても学生参加者を主な対象として、本日程の前後に研修の時間を設け、短歌の創作と批評の体験的学習を行うことができました。

また、主会場のメイン講義は質疑応答を含めて丁寧に録画・編集されて、福岡2会場・関西・熊本・長崎・鹿児島の全国計6か所の地方会場に配信されました。この録画視聴を中心に、各地方会場では各地の常設研修会の参加メンバーを中心とした相互研鑽が行われました。

以上により、主会場64名と地方会場47名の合計111名が今年の合宿に参加しました

#### ② 第67回合宿教室レポート『日本への回帰—第58集』の刊行

上記の主会場の内容を中心とした第67回合宿教室のレポートである『日本への回帰—第58集』は、関東地区在住の山内健生・内海勝彦両氏を中心とする会員諸氏の協力で、新書版222ページにまとめられ、令和5年3月に1000部を刊行し、会員全員及び参加者全員に発送致しました。

### 2. 常設研修会としての全国各地での活動

「合宿教室」の開催を軸とする、全国各地での学生、社会人の研鑽活動は、各地在住の本会会員の助言、指導もあって、充実した営みが続けられました。その内容は、輪読会・読書会・短歌の会・古典研究会等ですが、今年度もコロナ禍の中でオンラインでの研修会が多く行われました。対面での相互交渉の密度には及ばないものの、距離的制約がないという利点もあり、隔地間での会合も含めて活発な研鑽活動が展開されました。

### 【関東地区】

関東地区ではコロナ禍により一部の研修会は中止を余儀なくされたものの、下記の学生・社会人の参加する研修会が継続開催され、主として東京事務所の会議室及びオンライン形式で開かれました。

- ・小林秀雄著『本居宣長』読書会（国武忠彦参与による講読）
- ・東京短歌の会
- ・四土会（黒上正一郎著『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』輪読）
- ・葦牙の会
- ・三井甲之研究会
- ・駒場読書会
- ・松陰会

※コロナ禍により休止中の会合

講読の会、日本の国柄と皇室に関する研究会

### 【北海道・東北地区】

- ・北国短歌の会

北海道・東北地区では、昨年度、オンライン機能を利用した短歌の会が発足し、これに合わせて、今年度も札幌在住の会員大町憲朗氏を中心に『北前船通信』と題する歌だよりが発信されました。

### 【北陸地区】

- ・かたかごの会—輪読と短歌の創作・相互批評

さらに、富山在住の会員岸本弘氏編集による『高志のうた』と題する会員・関係者の歌だよりが発信され、誌上での相互研鑽や心の交流が展開されました。

### 【関西地区】

- ・関西信和会「語り継ごう 日本の思想」の輪読

### 【山口地区】

- ・中国短歌の会

### 【福岡地区】

- ・(聖徳)太子会
- ・小柳陽太郎先生に学ぶ勉強会
- ・眞木和泉守研究会
- ・筑紫短歌の会
- ・「しきしまの道」会

#### 【長崎地区】

- ・長崎短歌の会

#### 【熊本地区】

- ・三土会
- ・熊本短歌の会

#### 【鹿児島地区】

- ・輪読会 ※コロナ禍により休止中

### 3. 「短歌通信」の発行

わが国の伝統文化の中核をなす短歌の創作・実習の場として、全国各地から寄せられた短歌が毎月「短歌通信」として奥富修一会員の編集によってまとめられ、今期3月までに197号が継続発行されました。全国各地の短歌の会の活発な活動を背景に、充実した内容となりました。

### 4. 講演会の開催

第25期（第34回）を迎えた「国民文化講座」は、令和4年6月26日（日）千代田区立日比谷図書文化館で開催されました。講師には一般社団法人アジア支援機構代表理事・池間哲郎先生をお招きし、「日本はなぜアジアの国々から愛されるのか—今、私達が学ぶべきこと—」と題して、長年の実体験を踏まえて、懸命に生きるアジアの子どもたちの姿や日本への期待について感銘深いお話をいただきました。約110名が聴講し、熱心な質疑応答の時間をもちました。

### 5. 情報発信の基盤強化

本会のホームページ上に本会の事業活動の紹介はもとより、基幹事業である「学生青年合宿教室」及び本会主催の「国民文化講座」をはじめ各種講演会や諸行事及び各地での読書会、輪読会等の案内を掲示して、「合宿教室」の参加勧誘及び会員相互の研鑽情報の提供に成果を挙げています。

平成26年1月には本会のフェイスブックを開設いたしました。今年も会員島津正数氏を管理者として、活発な情報発信を続けております。多数の方々に本会の活動を理解してもらうためにも有効な手立てであると考えております。

また、前記の常設研修活動をサポートすべく、本会に於いても、オンライン会議ツ—

ルを導入し、活用しております。

## 6. 本会発行書籍の電子化(PDF)

既刊の本会発行の書籍をPDF化し、会員に本会HPを通し閲覧可能とすると共に電子書籍として販売するなど再利用の活性化・普及をはかりました。

## II. その他の事業

### 1. 会報の発行

会報(月刊『国民同胞』)は、会員の研鑽の成果を世に問うという伝統を踏襲しつつ、また新しい企画も加えながら1300部を継続刊行し、期末で第737号目の発行となっております。なお50号毎の合本も第14巻までを頒布しております。

### 2. 出版活動

戦後、本会を創立された小田村寅二郎先生の遺文遺詠を集めた『小田村寅二郎遺稿選集』全5巻のうち、戦前篇2巻及び和歌篇の計3巻を刊行しました。

### 3. 顕彰事業

日本学生協会・精神科学研究所・国民文化研究会の道統に連なる師友のみ霊をお祀りする本会恒例の慰霊祭は、令和4年9月23日(秋分の日)午後3時から飯田橋の「東京大神宮」において厳粛に執り行われました。コロナ禍のため、御遺族及び東京地区の会員を中心に斎行致しました。全国から献詠歌が多数寄せられました。また、この日に先立つ同年8月7日(日)には、福岡市南郊の油山中腹の泪が原に関係者20名が集い、昭和20年8月20日、敗戦の責めを負い自刃された長島秀男海軍技術中佐と寺尾博之海軍少尉の慰霊祭が執り行われました。

## III. 総会・理事会の開催状況

今年度の総会及び理事会の開催状況は以下の通りです。

### 【総会】

- ・開催日時 令和4年6月18日(土)午前10時00分～11時00分
- ・場 所 金王八幡宮社務所 渋谷区渋谷3-5-12

- ・ 出欠状況 本人出席 10名 議決権行使書 240名 欠席会員 149名  
合計399名（総正会員数）
- ・ 第1号議案 「令和3年度事業報告及び収支決算」に関する事項
- ・ 第2号議案 「理事及び監事候補者選任」に関する事項

## 【理事会】

- No. 1 ・ 開催日時 令和4年5月13日(金)18時30分～20時30分
- ・ 場 所 国民文化研究会会議室
  - ・ 出欠状況 本人出席 10名\* 欠席 2名 出席監事 1名\* 欠席監事 1名  
(\* 出席者数にオンライン参加を含む。以下同じ)
  - ・ 議 案 (1)「令和3年度事業報告及び収支決算」に関する事項  
(2)「理事及び監事候補者選任」に関する事項  
(3)「定時総会招集」に関する事項
- No. 2 ・ 開催日時 令和4年6月18日(土)午前11時30分～午後12時30分
- ・ 場 所 国民文化研究会会議室
  - ・ 出欠状況 本人出席 10名\* 欠席 1名 監事出席 2名\*
  - ・ 議 案 (1)代表理事選定についての事項  
(2)業務執行理事選定についての事項
- No. 3 ・ 開催日時 令和5年3月16日(木) 午後 6 時30分～午後 8 時30分
- ・ 場 所 国民文化研究会会議室
  - ・ 出欠状況 本人出席 7名\* 欠席 4名 出席監事 1名\* 欠席監事1名
  - ・ 議 案 (1)「令和5年度事業計画」に関する事項  
(2)「令和5年度収支予算」に関する事項  
(3)「新入会員の入会」に関する事項
  - ・ 報告事項 業務執行理事からの業務報告

《附》

## 既往67年間における 主要事業一覧

( 目 次 )

1. 「合宿教室」の開催
2. 「合宿教室参加者感想文集」の刊行
3. 「合宿教室レポート」の刊行
4. 「国文研叢書」の刊行
5. 「国民文化講座」の開催
6. その他の「資料出版」と会報（月刊『国民同胞』）の刊行
7. 役員・顧問・参与（令和5年3月31日現在）



# 1. 「合宿教室」の開催 — 66年間にわたる「大学教官有志協議会」との共催事業

この66年間に延べ 15,565名の累計参加者数がみられます。

回数	年 度	開 催 地	参加人数	主 要 講 師
第1回	昭和31年 8月	霧 島	92	広 田 洋 二・瀬 上 安 正・川 井 修 治
第2回	昭和32年 8月	福 岡	127	竹 山 道 雄・高 山 岩 男・浅 野 晃
第3回	昭和33年 8月	佐 賀	72	勝 部 真 長・木 下 彪・森 三 十 郎
第4回	昭和34年 8月	阿 蘇	160	花 田 大 五 郎・中 山 優・野 口 恒 樹
第5回	昭和35年 8月	雲 仙	200	木 内 信 胤・花 田 大 五 郎・佐 藤 慎 一 郎
第6回	昭和36年 8月	雲 仙	208	小 林 秀 雄・木 内 信 胤・津 下 正 章
第7回	昭和37年 8月	阿 蘇	215	福 田 恆 存・木 内 信 胤・黒 岩 一 郎
第8回	昭和38年 8月	雲 仙	202	竹 山 道 雄・木 内 信 胤・木 下 広 居
第9回	昭和39年 8月	桜 島	202	小 林 秀 雄・広 田 洋 二・木 内 信 胤
第10回	昭和40年 8月	城島(大分)	215	岡 潔・花 見 達 二・木 内 信 胤
第11回	昭和41年 8月	雲 仙	240	福 田 恆 存・木 内 信 胤・戸 川 尚
第12回	昭和42年 8月	阿 蘇	336	林 房 雄・太 田 耕 造・木 内 信 胤
第13回	昭和43年 8月	霧 島	353	竹 山 道 雄・高 谷 覚 蔵・木 内 信 胤
第14回	昭和44年 8月	阿 蘇	403	岡 潔・木 内 信 胤・木 下 道 雄
第15回	昭和45年 8月	雲 仙	491	小 林 秀 雄・木 内 信 胤・桑 原 暁 一
第16回	昭和46年 8月	霧 島	302	村 松 剛・木 内 信 胤・戸 田 義 雄
第17回	昭和47年 8月	阿 蘇	402	木 内 信 胤・山 本 勝 市・胡 蘭 成
第18回	昭和48年 8月	雲 仙	433	村 松 剛・木 内 信 胤・山 口 宗 之
第19回	昭和49年 8月	霧 島	528	小 林 秀 雄・木 内 信 胤・戸 田 義 雄
第20回	昭和50年 8月	阿 蘇	435	福 田 恆 存・木 内 信 胤・夜 久 正 雄
第21回	昭和51年 8月	佐 世 保	372	長 谷 川 才 次・木 内 信 胤・村 松 剛
第22回	昭和52年 8月	雲 仙	332	木 内 信 胤・衛 藤 藩 吉・高 木 尚 一
第23回	昭和53年 8月	阿 蘇	440	小 林 秀 雄・木 内 信 胤・松 本 唯 一
第24回	昭和54年 8月	霧 島	268	木 内 信 胤・高 山 岩 男・山 田 輝 彦
第25回	昭和55年 8月	雲 仙	431	福 田 恆 存・法 眼 晋 作・宝 辺 正 久
第26回	昭和56年 8月	阿 蘇	353	斎 藤 忠・松 村 剛・青 砥 宏 一
第27回	昭和57年 8月	霧 島	321	黛 敏 郎・斎 藤 忠・幡 掛 正 浩
第28回	昭和58年 8月	雲 仙	327	小 堀 桂 一 郎・斎 藤 忠・長 内 俊 平
第29回	昭和59年 8月	阿 蘇	302	吉 岡 一 郎・小 堀 桂 一 郎・加 納 祐 五
第30回	昭和60年 8月	阿 蘇	249	市 原 豊 太・高 村 坂 彦・小 田 村 四 郎
第31回	昭和61年 8月	島 原	294	江 藤 淳・村 松 剛・小 柳 陽 太 郎
第32回	昭和62年 8月	阿 蘇	269	鈴 木 一・小 堀 桂 一 郎・関 正 臣
第33回	昭和63年 8月	島 原	227	児 島 襄・小 堀 桂 一 郎・加 納 祐 五
第34回	平成元年 8月	島 原	204	村 松 剛・山 田 輝 彦・國 武 忠 彦
第35回	平成2年 8月	阿 蘇	204	黛 敏 郎・小 柳 陽 太 郎・占 部 賢 志
第36回	平成3年 8月	厚 木	239	田 久 保 忠 衛・坂 東 一 男・山 内 健 生
第37回	平成4年 8月	阿 蘇	257	村 松 剛・平 川 祐 弘・奥 富 修 一
第38回	平成5年 8月	厚 木	271	村 松 剛・佐 伯 彰 一・白 濱 裕

第39回	平成6年 8月	阿 蘇	253	徳岡 孝夫・小堀 桂一郎・絹田 洋一
第40回	平成7年 8月	厚 木	240	小川 三夫・長谷川三千子・東中野 修道
第41回	平成8年 8月	阿 蘇	171	竹本 忠雄・伊藤 哲夫・坂口 秀俊
第42回	平成9年 8月	厚 木	213	西尾 幹二・竹本 忠雄・酒村 聡一郎
第43回	平成10年 8月	阿 蘇	193	徳岡 孝夫・小堀 桂一郎・志賀 建一郎
第44回	平成11年 8月	富 士	178	井尻 千男・長谷川三千子・山口 秀範
第45回	平成12年 8月	阿 蘇	154	小堀 桂一郎・東中野 修道・布瀬 雅義
第46回	平成13年 8月	富 士	150	長谷川三千子・伊藤 哲夫・今林 賢郁
第47回	平成14年 8月	江田島	244	中西 輝政・小柳 陽太郎・名越二荒之助
第48回	平成15年 8月	富 士	171	小堀 桂一郎・伊藤 哲夫・占部 賢志
第49回	平成16年 8月	阿 蘇	170	中西 輝政・小田村 四郎・石村 善悟
第50回	平成17年 8月	伊 勢	219	長谷川三千子・松浦 光修・山内 健生
第51回	平成18年 8月	霧 島	191	井尻 千男・占部 賢志・山内 健生
第52回	平成19年 8月	奈 良	180	小堀 桂一郎・小川 三夫・小野 吉宣
第53回	平成20年 8月	伊 勢	150	伊藤 哲夫・占部 賢志・岸本 弘
第54回	平成21年 8月	厚 木	160	長谷川三千子・ペマギャルポ・占部 賢志
第55回	平成22年 8月	阿 蘇	151	中西 輝政・志賀 建一郎・國武 忠彦
第56回	平成23年 8月	江田島	141	小堀 桂一郎・山内 健生・廣木 寧
第57回	平成24年 8月	阿 蘇	152	竹田 恒泰・小柳 志乃夫・今林 賢郁
第58回	平成25年 8月	厚 木	142	伊藤 哲夫・國武 忠彦・山口 秀範
第59回	平成26年 9月	淡 路	108	中西 輝政・小柳 左門・岸本 弘
第60回	平成27年 8月	富 士	115	長谷川三千子・小柳 志乃夫・國武 忠彦
第61回	平成28年 9月	東日本(富士)	143	石 平・今林 賢郁・伊藤 哲朗
	平成28年 8月	西日本(福岡)		今林 賢郁・山口 秀範・廣木 寧
第62回	平成29年 8月	福 岡	83	山内 健生・小柳 左門・内海 勝彦
第63回	平成30年 9月	東日本(富士)	116	江崎 道朗・國武 忠彦・青山 直幸
	平成30年 8月	西日本(福岡)		折田 豊生・廣木 寧・與島 誠央
第64回	令和元年 8月	東日本(柏)	125	伊藤 哲夫・山内 健生・西山 八郎
	令和元年 5月	西日本(芦北)		伊勢 雅臣・小柳 左門・今村 武人
第65回	令和2年 2月	長 崎	145	小柳 左門・池松 伸典
	令和2年10月	熊 本		小柳 左門・伊勢 雅臣
	令和2年10月	福 岡		山口 秀範・中島 繁樹
第66回	令和3年 8月	東日本(東京)	131	江崎 道朗・伊勢 雅臣
	令和3年10月	東日本(東京)		鵜野 光博
	令和3年 7月	関西地区		絹田 洋一・庭本 秀一郎
第67回	令和4年 9月	東 京	111	伊藤 哲夫・小柳 左門
	令和4年 9月	地方会場		録画及び地元講師に基づく研修
		累計参加者数		15,676名

## 2. 「合宿教室参加者の感想文集」の刊行－合計55冊刊行済み

この「感想文集」は、全参加者に「生のままの感想」を書いてもらい、また合宿中に各人に創作してもらった「短歌－しきしまのみち－」を併せて収録したもので、第10回以降が下記のようにまとめられて、毎年、関係者約1300名に配布され、ご好評を頂いております。

書名		発行年月日	頁数	判
第10回「城島合宿教室」参加者感想文集	本会編	昭和 42. 10. 20	80	A5
第11回「雲仙合宿教室」参加者感想文集	本会編	41. 10. 5	104	A5
第12回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	42. 11. 5	120	A5
第13回「霧島合宿教室」参加者感想文集	本会編	43. 10. 10	118	A5
第14回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	44. 10. 20	136	A5
第15回「雲仙合宿教室」参加者感想文集	本会編	45. 10. 30	218	A5
第16回「霧島合宿教室」参加者感想文集	本会編	46. 11. 10	126	A5
第17回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	47. 10. 30	165	A5
第18回「雲仙合宿教室」参加者感想文集	本会編	48. 10. 20	176	A5
第19回「霧島合宿教室」参加者感想文集	本会編	49. 10. 30	200	A5
第20回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	50. 10. 20	167	A5
第21回「佐世保合宿教室」参加者感想文集	本会編	51. 10. 20	152	A5
第22回「雲仙合宿教室」参加者感想文集	本会編	52. 10. 25	156	A5
第23回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	53. 10. 25	186	A5
第24回「霧島合宿教室」参加者感想文集	本会編	54. 10. 20	136	A5
第25回「雲仙合宿教室」参加者感想文集	本会編	55. 10. 25	192	A5
第26回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	56. 10. 25	164	A5
第27回「霧島合宿教室」参加者感想文集	本会編	57. 11. 1	142	A5
第28回「雲仙合宿教室」参加者感想文集	本会編	58. 10. 25	166	A5
第29回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	59. 11. 15	158	A5
第30回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	60. 11. 8	146	A5
第31回「島原合宿教室」参加者感想文集	本会編	61. 11. 14	162	A5
第32回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	62. 10. 28	156	A5
第33回「島原合宿教室」参加者感想文集	本会編	63. 10. 31	132	A5
第34回「島原合宿教室」参加者感想文集	本会編	平成 元 .10. 31	121	A5
第35回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	2. 11. 15	124	A5
第36回「厚木合宿教室」参加者感想文集	本会編	3. 11. 8	136	A5
第37回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	4. 10. 31	142	A5
第38回「厚木合宿教室」参加者感想文集	本会編	5. 10. 31	139	A5
第39回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	6. 10. 31	132	A5
第40回「厚木合宿教室」参加者感想文集	本会編	7. 10. 31	128	A5
第41回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	8. 10. 31	106	A5
第42回「厚木合宿教室」参加者感想文集	本会編	9. 10. 31	130	A5
第43回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	10. 11. 10	126	A5
第44回「富士合宿教室」参加者感想文集	本会編	11. 10. 30	108	A5
第45回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	12. 10. 30	126	A5

第46回「富士合宿教室」参加者感想文集	本会編	13. 11. 10	97	A5
第47回「江田島合宿教室」参加者感想文集	本会編	14. 10. 30	152	A5
第48回「富士合宿教室」参加者感想文集	本会編	15. 10. 30	112	A5
第49回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	16. 11. 20	107	A5
第50回「伊勢合宿教室」参加者感想文集	本会編	17. 10. 31	131	A5
第51回「霧島合宿教室」参加者感想文集	本会編	18. 11. 30	114	A5
第52回「奈良合宿教室」参加者感想文集	本会編	19. 11. 25	111	A5
第53回「伊勢合宿教室」参加者感想文集	本会編	20. 12. 15	99	A5
第54回「厚木合宿教室」参加者感想文集	本会編	21. 12. 15	91	A5
第55回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	22. 12. 20	94	A5
第56回「江田島合宿教室」参加者感想文集	本会編	23. 12. 26	90	A5
第57回「阿蘇合宿教室」参加者感想文集	本会編	24. 12. 20	93	A5
第58回「厚木合宿教室」参加者感想文集	本会編	25. 12. 20	88	A5
第59回「淡路合宿教室」参加者感想文集	本会編	26. 12. 15	83	A5
第60回「富士合宿教室」参加者感想文集	本会編	27. 12. 25	92	A5
第61回「合宿教室」(西日本・東日本)感想文集	本会編	28. 12. 25	135	A5
第62回「福岡合宿教室」参加者感想文集	本会編	29. 12. 25	74	A5
第63回「合宿教室」(西日本・東日本)感想文集	本会編	30. 12. 25	110	A5
第64回「合宿教室」(西日本・東日本)感想文集	本会編	令和 元 . 12. 25	116	A5
第67回「合宿教室」(主会場・地方会場)感想文集	本会編	令和 5 . 1. 10	76	A5

### 3. 「合宿教室レポート」の刊行－合計66冊刊行済み

前記の「合宿教室」のレポートで、「合宿教室」参加者の必読書となっております。

回数	開催地	年	書名	発行年月日	頁数	判
第1回	霧島	昭31	混迷の時代に指標を求めて (品切)	昭和 31. 11. 7	88	A5
第2回	福岡	32	民族自立のために (品切)	32. 10. 20	53	A5
(第2回)	岡山	32	民族復興の根底を培うもの (品切)	33. 7. 10	113	新書判
第3回	佐賀	33	民族の明日を求めて (品切)	34. 4. 10	250	新書判
第4回	阿蘇	34	国民同胞感の探求	35. 5. 5	365	四六判
第5回	雲仙	35	続 国民同胞感の探求 (品切)	36. 6. 1	433	四六判
第6回	雲仙	36	続々国民同胞感の探求	37. 8. 1	325	四六判
第7回	阿蘇	37	新しい学風を興すために第1集 (品切)	38. 5. 10	272	新書判
第8回	雲仙	38	新しい学風を興すために第2集	39. 4. 3	322	新書判
第9回	桜島	39	新しい学風を興すために第3集	40. 4. 3	328	新書判
第10回	城島	40	日本への回帰 第1集 (品切)	41. 5. 20	323	新書判
第11回	雲仙	41	日本への回帰 第2集 (品切)	42. 5. 20	336	新書判
第12回	阿蘇	42	日本への回帰 第3集 (品切)	43. 5. 20	345	新書判
第13回	霧島	43	日本への回帰 第4集	44. 5. 20	366	新書判
第14回	阿蘇	44	日本への回帰 第5集 (品切)	45. 2. 10	337	新書判
第15回	雲仙	45	日本への回帰 第6集 (品切)	46. 4. 30	283	新書判
第16回	霧島	46	日本への回帰 第7集 (品切)	47. 4. 30	338	新書判
第17回	阿蘇	47	日本への回帰 第8集 (品切)	48. 3. 27	315	新書判
第18回	雲仙	48	日本への回帰 第9集 (品切)	49. 3. 27	307	新書判
第19回	霧島	49	日本への回帰 第10集 (品切)	50. 3. 29	323	新書判
第20回	阿蘇	50	日本への回帰 第11集 (品切)	51. 3. 23	344	新書判
第21回	佐世保	51	日本への回帰 第12集 (品切)	52. 3. 23	306	新書判
第22回	雲仙	52	日本への回帰 第13集 (品切)	53. 3. 23	342	新書判
第23回	阿蘇	53	日本への回帰 第14集	54. 3. 23	338	新書判
第24回	霧島	54	日本への回帰 第15集 (品切)	55. 3. 23	300	新書判
第25回	雲仙	55	日本への回帰 第16集 (品切)	56. 3. 23	322	新書判
第26回	阿蘇	56	日本への回帰 第17集 (品切)	57. 3. 20	320	新書判
第27回	霧島	57	日本への回帰 第18集	58. 3. 20	344	新書判
第28回	雲仙	58	日本への回帰 第19集	59. 3. 20	346	新書判
第29回	阿蘇	59	日本への回帰 第20集	60. 3. 20	350	新書判
第30回	阿蘇	60	日本への回帰 第21集	61. 3. 20	364	新書判
第31回	島原	61	日本への回帰 第22集	62. 3. 20	331	新書判
第32回	阿蘇	62	日本への回帰 第23集	63. 3. 20	312	新書判
第33回	島原	63	日本への回帰 第24集	平成 元 3. 20	322	新書判
第34回	島原	平成元	日本への回帰 第25集	2. 3. 20	318	新書判
第35回	阿蘇	2	日本への回帰 第26集	3. 3. 10	288	新書判
第36回	厚木	3	日本への回帰 第27集	4. 3. 10	265	新書判
第37回	阿蘇	4	日本への回帰 第28集	5. 3. 10	293	新書判

第38回	厚木	5	日本への回帰 第29集	6. 3. 10	279	新書判
第39回	阿蘇	平成 6	日本への回帰 第30集	7. 5. 10	255	新書判
第40回	厚木	7	日本への回帰 第31集	8. 4. 25	289	新書判
第41回	阿蘇	8	日本への回帰 第32集	9. 3. 25	295	新書判
第42回	厚木	9	日本への回帰 第33集	10. 4. 21	291	新書判
第43回	阿蘇	10	日本への回帰 第34集	11. 4. 15	292	新書判
第44回	富士	11	日本への回帰 第35集	12. 4. 15	330	新書判
第45回	阿蘇	12	日本への回帰 第36集	13. 4. 10	274	新書判
第46回	富士	13	日本への回帰 第37集	14. 1. 25	292	新書判
第47回	江田島	14	日本への回帰 第38集	15. 2. 28	283	新書判
第48回	富士	15	日本への回帰 第39集	16. 2. 27	317	新書判
第49回	阿蘇	16	日本への回帰 第40集	17. 3. 15	337	新書判
第50回	伊勢	17	日本への回帰 第41集	18. 3. 30	302	新書判
第51回	霧島	18	日本への回帰 第42集	19. 2. 28	274	新書判
第52回	奈良	19	日本への回帰 第43集	20. 1. 31	272	新書判
第53回	伊勢	20	日本への回帰 第44集	21. 2. 28	260	新書判
第54回	厚木	21	日本への回帰 第45集	22. 2. 28	276	新書判
第55回	阿蘇	22	日本への回帰 第46集	23. 2. 28	261	新書判
第56回	江田島	23	日本への回帰 第47集	24. 2. 28	266	新書判
第57回	阿蘇	24	日本への回帰 第48集	25. 3. 20	247	新書判
第58回	厚木	25	日本への回帰 第49集	26. 2. 28	314	新書判
第59回	淡路	26	日本への回帰 第50集	27. 3. 9	265	新書判
第60回	富士	27	日本への回帰 第51集	28. 3. 20	254	新書判
第61回	福岡・富士	28	日本への回帰 第52集	29. 3. 20	374	新書判
第62回	福岡	29	日本への回帰 第53集	30. 3. 20	216	新書判
第63回	福岡・富士	30	日本への回帰 第54集	31. 3. 10	374	新書判
第64回	熊本・千葉	令和元	日本への回帰 第55集	令和 2 3. 10	315	新書判
第65回	長崎・熊本・福岡	2	日本への回帰 第56集	3. 3. 10	179	新書判
第66回	東京・関西	3	日本への回帰 第57集	4. 3. 10	170	新書判
第67回	東京・地方	4	日本への回帰 第58集	5. 3. 10	222	新書判

#### 4. 「国文研叢書」(新書判)の刊行

以上のような動態的諸事業のほかに、本会は、「学問の道統」を正すべき抱負のもとに出発したものでありますので、同人が蒞蓄を傾けた研究成果を、「国文研叢書」として発刊しております。

No.	書名	著者・編者	発行月日	頁数	現在
No. 1	古事記のいのち(昭和48年に改訂版発行)	夜久正雄	昭和 41. 3. 25	246	第4刷
No. 2	日本精神史鈔－親鸞と実朝の系譜－	桑原 暁 一	41. 11. 25	279	(品切)
No. 3	弁証法批判の歴史	高木 尚 一	42. 2. 25	241	第2刷
No. 4	日本思想の系譜－文献資料集(古代・中世)	小田村寅二郎編	42. 3. 25	309	第8刷
No. 5	日本思想の系譜－文献資料集(近世・その1)	小田村寅二郎編	43. 2. 1	317	第6刷
No. 6	日本思想の系譜－文献資料集(近世・その2)	小田村寅二郎編	43. 10. 10	409	第8刷
No. 7	日本思想の系譜－文献資料集(近代・その1)	小田村寅二郎編	44. 3. 25	403	第7刷
No. 8	日本思想の系譜－文献資料集(近代・その2)	小田村寅二郎編	44. 3. 25	381	第7刷
No. 9	歴史と人生観－マルクス主義の超克－	川井 修 治	43. 3. 15	283	(品切)
No. 10	欧米名著邦訳(明治)集－文献資料集－	小田村寅二郎編	45. 3. 20	483	第2刷
No. 11	続・日本精神史鈔－花山院とその系譜－	桑原 暁 一	45. 12. 25	310	(品切)
No. 12	短歌のすすめ	夜久正雄・山田輝彦	46. 4. 1	309	第11刷
No. 13	短歌のあゆみ－続「短歌のすすめ」－	夜久正雄・山田輝彦	46. 12. 1	316	(品切)
No. 14	ヨーロッパにおけるマルクス主義批判論集	桑原 暁 一	48. 1. 10	338	第2刷
No. 15	白村江の戦い－7世紀・東アジアの動乱－	夜久正雄	49. 1. 10	289	第2刷
No. 16	国史の地熱－聖徳太子と楠氏－	桑原暁一 遺稿	49. 10. 25	279	(品切)
No. 17	日本におけるマルクス主義批判論集	戸田 義 雄	51. 3. 10	324	(品切)
No. 18	明治天皇御集研究(東京堂版を改訂)	三井 甲 之	52. 2. 10	360	(品切)
No. 19	いのちささげて－戦中学徒・遺詠遺文抄	本 会 編	53. 2. 10	450	第2刷
No. 20	続・いのちささげて－戦中学徒・遺詠遺文抄	本 会 編	54. 4. 20	422	第2刷
No. 21	社会主義理論との戦い－山本勝市博士論文選集	加納祐五・三浦貞蔵 編	55. 2. 1	420	初 刷
No. 22	とっちゃん先生の国語教室－桑原暁－遺稿から－	本 会 編	56. 1. 20	172	初 刷
No. 23	戦後教育の中で	小柳 陽太郎	56. 12. 21	288	(品切)
No. 24	明治の精神－近代文学小論－	山田 輝 彦	57. 12. 20	335	(品切)
No. 25	米英思想研究抄	松田 福 松	58. 12. 20	258	第2刷
No. 26	「しきしまの道」研究	夜久正雄	60. 3. 10	332	第2刷
No. 27	学問・人生・祖国－小田村寅二郎選集－	本 会 編	61. 3. 5	360	第2刷
No. 28	戦後世代からの発言－真正なる日本人を目指して－	本 会 編	62. 3. 25	367	第2刷
No. 29	続 戦後世代からの発言－真正なる日本人を目指して－	本 会 編	62. 12. 15	288	初 刷
No. 30	萬葉集 その漲るいのち	廣瀬 誠	平成 元. 3. 10	328	第2刷
No. 31	Belief that と Belief in	加納 祐 五	2. 2. 25	276	初 刷
No. 32	和歌と日本文化	廣瀬 誠	3. 1. 28	325	初 刷
No. 33	祖国と人類の悲願－諸民族の聖魂－	戸田 義 雄	4. 3. 30	336	初 刷
No. 34	ソ連抑留と日本回帰	宮脇 昌 三	5. 3. 30	337	初 刷
No. 35	占領後遺症の克服－祖国の真の独立の為に－	小田村 四 郎	7. 1. 31	268	第2刷
No. 36	われらがマン・ツー・マン運動の戦後史	山田 輝 彦	8. 3. 28	224	初 刷
No. 37	若き友らへ語りかける言葉	長内 俊 平	10. 3. 12	282	初 刷
No. 38	古典にふれる喜び	國武 忠 彦	31. 3. 10	306	初 刷
No. 39	「新日本学」論考	山内 健 生	令和 3. 3. 20	385	初 刷

## 5. 「国民文化講座」の開催 —平成9年度開講以来25年間で33回開催

この事業は、戦前に本会の前身の「精神科学研究所」が主催した「日本世界観大学講座」を現代に甦らせようという、東京の若い会員達を中心として開始した試みです。

回数	開催日	講師（敬称略）		演題	会場
第1回	平成9年11月29日(土)	明星大学 教授・ 東京大学名誉教授	小堀桂一郎	世界における日本の使命	スクワール麹町
第2回	平成10年 2月 8日(日)	麗澤大学 教授・フー バー研究所客員研究員	西 鋭夫	真に対等な日米関係を目指して	国立教育会館
第3回	平成10年 3月 7日(土)	明治大学教授	入江 隆則	太平洋文明の興亡と日本	学士会館
第4回	平成10年 4月26日(日)	明星大学教授	高橋 史朗	次代の日本人に何をどう伝えるか	国立教育会館
第5回	平成10年12月 5日(土)	拓殖大学日本文化研究所 所長	井尻 千男	市場原理と共同体原理の大激突	学士会館
第6回	平成11年 2月14日(日)	拓殖大学総長	小田村四郎	戦後日本の「病根」と戦前の思想問題	国立教育会館
第7回	平成11年 4月11日(日)	防衛大学校教授	杉之尾孝生	戦史に学ぶ失敗の本質	国立教育会館
第8回	平成11年 6月13日(日)	岐阜女子大学教授	ベマ・ギャルボ	祖国チベットと日本	国立教育会館
第9回	平成11年12月 4日(土)	亜細亜大学教授	東中野修道	「南京虐殺」の全体像	法曹会館
第10回	平成12年 5月20日(土)	森野軍事研究所 所長	森野 安弘	この国のかたち—国防の視点から—	学士会館
第11回	平成12年12月 2日(土)	東京大学教授	藤岡 信勝	国民を育てる歴史教育を	横浜東急ホテル
第12回	平成13年12月 1日(土)	産経新聞論説委員	皿木 喜久	戦後教育で葬り去られた 歴史・文化・伝統	大手町サンケイプラザ
第13回	平成14年 5月11日(土)	アサヒビール名誉顧問	中條 高德	若き友らに語りたこと—志高く生きよう—	大手町サンケイプラザ
第14回	平成14年11月30日(土)	拓殖大学日本文化研究所 所長	井尻 千男	近代化に見る士分の系譜	東京国際フォーラム
第15回	平成15年 5月24日(土)	脚本家	林 秀彦	悲しきときの勇気—日本人のための幸福論	大手町サンケイプラザ
第16回	平成16年 5月15日(土)	元駐タイ大使	岡崎 久彦	日露戦争開戦百年—明治の外交と今日の外交の課題	靖国神社・靖国会館
第17回	平成17年 5月22日(土)	ジャーナリスト	櫻井よしこ	日本外交の課題—このまま滅ぶな日本—	靖国神社・参集殿
第18回	平成18年 4月22日(土)	筑波大学名誉教授	竹本 忠雄	フランスから見た祖国日本	明治神宮・参集殿
第19回	平成19年 5月19日(土)	東海旅客鉄道(株) 代表取締役会長	葛西 敬之	国家百年の計—鉄道事業経営・教育・外交—	明治神宮・参集殿
第20回	平成20年 5月17日(土)	明石元二郎大将 ご令孫	明石 元紹	祖父明石元二郎の生涯を語る—日露戦争後方攪乱工作と朝鮮・台湾での足跡—	靖国神社・靖国会館
第21回	平成21年 4月25日(土)	お茶の水女子大学 教授	藤原 正彦	祖国とは国語	明治神宮・参集殿



第22回	平成22年 5月22日(土)	拓殖大学大学院教授	遠藤 浩一	生存本能としての保守—正念場に立つ日本政治—	靖国神社・靖国会館
第23回	平成23年 5月15日(日)	外務省顧問	谷内正太郎	「坂の上の雲」よ再び！—戦略的外交のすすめ—	靖国神社・靖国会館
第24回	平成24年 5月19日(土)	筑波大学名誉教授	竹本 忠雄	日本を守る「天つ日嗣」の世界的意義	靖国神社・靖国会館
第25回	平成25年 6月14日(土)	拓殖大学教授	呉 善花	日本の受け身力	靖国神社・靖国会館
第26回	平成26年 6月14日(土)	評論家	石 平	日本は中国からの脅威にどう立ち向かうべきなのか	靖国神社・靖国会館
第27回	平成27年 6月13日(土)	演出家・翻訳家	福 田 逸	父、福田恆存を語る—戦後思想の中であって—	靖国神社・靖国会館
第28回	平成28年 6月11日(土)	東京基督教大学教授	西 岡 力	激動する朝鮮半島と日本	靖国神社・靖国会館
第29回	平成29年 6月10日(土)	文芸評論家・都留文科大学副学長	新保 祐司	出光佐三と日本人—その高き精神的気圏に触れて—	靖国神社・靖国会館
第30回	平成30年 6月24日(日)	文芸評論家	小川榮太郎	今、国民が目覚めるべきこと—水戸学・象山・松陰—	日比谷図書文化館
第31回	令和元年 5月19日(日)	東京大学名誉教授	小堀桂一郎	あらためて考へてみる我が國體	日比谷図書文化館
第32回	令和2年 11月22日(日)	拓殖大学学事顧問	渡辺 利夫	血脈、天皇そして日本	日比谷図書文化館
第33回	令和3年 11月21日(日)	東海旅客鉄道(株)名誉会長	葛西 敬之	21世紀の体制への世界的転換点—我々は何をなすべきか—	日比谷図書文化館
第34回	令和4年 6月26日(日)	一般社団法人アジア支援機構代表理事	池間 哲郎	日本はなぜアジアの国々から愛されるのか—今、私達が学ぶべきこと—	日比谷図書文化館

## 6. その他の「資料」出版と会報(月刊『国民同胞』)の刊行

- ① 黒上正一郎先生(昭和5年、31歳で逝去)は、当会源流の一高昭信会の創始者であり、その心魂をこめて書き遺された著書は、本会に学ぶ人々のテキストになっています。

現在品切れであり抜刷本を用意しています。

昭和57年には『黒上正一郎先生のうたと消息』が編纂され、有意義に活用されております。

書名	著者	発行月日	頁数	判	頒価	送料
聖徳太子の信仰思想と日本文化創業	黒上正一郎	昭和 41. 3. 25	304	上製A5 第8刷	2,000 円	品切
聖徳太子の信仰思想と日本文化創業 (抜刷本)	黒上正一郎		130	A 5	500円	実費
黒上正一郎先生のうたと消息	長内俊平編	昭和 57. 8. 1	174	A 5	800円	同上

- ② 本会役員一同にとっての先輩であり、大東亜戦争終了の翌年昭和21年に36歳で早逝された田所廣泰氏の遺稿集(第2版)と、やはり先輩で、昭和58年に72歳で逝去された高木尚一氏の遺文・遺稿集(初版)並びに戦前からの同志、青砥宏一、加藤敏治、三浦貞蔵各氏の遺文・遺歌をまとめました。さらに平成12年度に、初代理事長小田村寅二郎氏(平成11年に86歳で逝去)の追悼集を上梓し、平成13年度は田所廣泰先輩遺文を追録の形でまとめ、29年度には小柳陽太郎氏の追悼集を加えました。

書名	編者	発行月日	頁数	判	頒価	送料
憂国の光と影－田所廣泰遺稿集	小田村寅二郎	昭和 45. 3. 10	501	上製 四六判	1,800円	実費
ひとすぢの信－高木尚一遺文遺歌集	小田村寅二郎	昭和 59. 10. 10	382	上製 四六判	1,700円	同上
青砥通信鈔－青砥宏一遺歌集	宝辺正久 小柳陽太郎 長内俊平	昭和 62. 1. 20	277	上製 四六判	1,500円	同上
生の記念・加藤敏治遺稿集	宝辺正久 小柳陽太郎 長内俊平	平成 4. 4. 20	319	上製 四六判	1,700円	同上
ふるさと・三浦貞蔵遺文遺歌集	加納祐五 星野 貢 香川亮二	平成 5. 2. 25	245	上製 四六判	1,350円	同上
追悼 小田村寅二郎先生	上村和男	平成 12. 9. 24	405	上製 A 5	2,500円	同上
田所廣泰先輩遺文追録	上村和男	平成 14. 3. 15	83	B 5	1,000円	同上
追悼 小柳陽太郎先生	石村善悟	平成 29. 4. 29	496	上製 A 5	2,000円	同上

- ③ 平成7年4月に、当会顧問加納祐五氏(平成19年94歳にて逝去)の講話と同氏を囲む座談会を一書にまとめ上梓しました。

書名	著者	発行月日	頁数	判	頒価	送料
母の智一女であることについて一	加納 祐五	平成 7. 4. 29	66	A 5	500円	実費

- ④ 昭和45年前後全国を風靡した大学紛争において、良識派ともいふべき教官各位は、不当にも苦しい立場に立たされました。本会は、事の真相が世に正しく伝わらないのを憂え、九州地区に限られましたが、九州地区の国立大学における良識的所見を集録して、貴重な資料として昭和46年に2,500部刊行し世に送ったのであります。

書名	編者	発行月日	頁数	判
九州地区・国立大学紛争の体験記録一教官側発言	川井修治	昭和 46. 10. 30	337	A 5

- ⑤ 我が国の教育、特に小・中・高校教育のうち、国語・社会科の内容を正すために、本会内の分科会である「教育内容は正促進委員会」がこれを作成し、昭和47年に各方面に送ったものです(10,000部刊行)。

書名	著者	発行月日	頁数	判
現下の学校教育内容を正すために急務を要する問題点	小柳陽太郎	昭和 47. 12. 15	26	B 5

- ⑥ 以上のほかに、昭和41年及び42年、43年末から44年初頭、平成15年に青年学生を海外に派遣いたしました折のレポートです。

書名	著者	発行月日	頁数	判
日韓・海と河の交流(日韓交流レポート)	浜田収二郎	昭和43. 6. 1	112	A 5
香港・マニラ・ミンダナオ巡訪団レポート	川井修治 浜田収二郎	昭和44. 11. 29	80	A 5
台湾派遣学生研修団報告集	小野吉宣	平成16. 1. 10	54	A 5

- ⑦ また、占領下の言論弾圧の裁判につき、後世に伝えられるべき稀有な記録として「資料」を作成し、300部限定印刷配布いたしました。

書名	編者	発行月日	頁数	判
一占領下の自由主義者弾圧の裁判記録一 (故)山本勝市経済学博士・追放物語始末 (御本人の遺稿)	三浦貞蔵 小田村寅二郎	平成5. 2. 25	81	B 5

⑧ 月刊『国民同胞』

本会の機関紙で現在2,000部発行。なお、堅紙上製本として、No. 1号からNo. 50号までを第1巻に、以降50号ごとに一卷にまとめ、現在はNo. 700号までの第14巻目までが合本にされ、希望者に第6～14巻は各巻とも頒価2,400円（送料450円）で頒布されており、第1～5巻は品切れとなっております（購読料は、年間（1月号～12月号）送料込2,000円となっております）。

月刊・国民同胞	No. 1号	昭和36. 11. 10	(創刊号)
	No. 737号	令和 5. 3. 10	(期末号)

⑨当初は日本教文社刊行、現在は本会刊行の書籍

書名	著者	発行月日	頁数	判	定価
日本思想の源流	小田村寅二郎	昭和46年9月 平成2年2月(14版)	306	四六判	品切

⑩「国民文化講座」の講義録

書名	編者	発行月日	頁数	判
『国民文化講座』第一期(平成9年度)講演録	『国民文化講座』 実行委員会	平成11年2月14日	87	A5

⑪その他の本会発行の書籍

書名	著者	発行日	頁数	判	頒価	送料
歌よみに与ふる書、他四編	正岡子規	昭和39. 3. 1	121	新書	250円	実費
『古事記』神話の思想－ 日本思想研究序説	山内健生	昭和58. 7. 15	180	新書	品切	
随想十二ヶ月 －日本のこころ－	小柳陽太郎	平成15. 2. 1	89	B6	500円	実費
「合宿教室」における小田 村寅二郎先生の御講義録	当会 福岡 事務所編	平成17. 3. 2	77	新書	非売品	
「一高昭信会」初期活動記 録と黒上正一郎先生ご逝 去前後の「昭信会日誌」 中心として	国民文化 研究会	平成17. 11. 5	118	A5	500円	実費
五十周年記念シンポジウム 皇室と国民	国民文化 研究会	平成18. 6. 15	47	B6	200円	同上
名歌でたどる日本の心 (国文研版)	小柳陽太郎 他編著	平成22. 8. 15	285	A5	1,500円	実費

合本「澤部通信」歌と消息	国民文化研究会	平成23. 2. 11	55	A5	2,000円	同上
維摩経義疏の現代語譯と研究 上中下3巻	国民文化研究会	平成26. 3. 15	437	B5	品切	
国民文化研究会 六十年の歩み	国民文化研究会	平成27. 11. 7	26	A5	非売品	
六十周年記念の集ひ 記念講演	国民文化研究会	平成28. 3. 2	57	B6	200円	実費

⑫記録映像

ビデオ「学問と人生を語り合う」（第30回全国学生青年合宿教室〔阿蘇〕記録）
ビデオ「文化の戦士」（昭和15年信州菅平全国大学・高専校学生400名合宿記録8泊9日間の映画トキフィルムの再生）
DVD「- 社団法人 国民文化研究会 - 50年の歩み」（本会発足50周年の記録として作成）一部 500円にて頒布

⑬関係出版図書（市販での取扱）

書名	編者・著者	発行元	発行月日	頁数	定価
今上天皇御歌解説（附、万葉集論） （注：昭和天皇）	三井甲之	斑鳩会	昭和 42. 4. 29	157	絶版
歴代天皇の御歌 — 初代から昭和天皇まで二千首 —	小田村寅二郎 小柳陽太郎	日本教 文社	昭和 48. 9. 1	450	絶版
昭和史に刻むわれらが道統	小田村寅二郎	日本教 文社	昭和53年 6月	326	絶版
歌人・今上天皇（注：昭和天皇）	夜久正雄	日本教 文社	昭和 60. 11. 10	420	絶版
勝鬘経義疏の現代語譯と研究（上・下 巻）	聖徳太子 研究会	大明堂	昭和 63. 2. 11	290 382	絶版
小林秀雄・講演〈カセット・CD文庫〉 全三巻・別巻 （平成16年改訂版発行）	合宿教室での 講演録	新潮社	昭和 60. 12. 20		各巻 4,000円
平成の大みうたを仰ぐ	国民文化研究会	展転社	平成 11. 11. 12	254	1,800円
名歌でたどる日本の心	小柳陽太郎他 編著	草思社	平成 17. 8. 30	285	1,900円
日本主義的学生思想運動資料集成 I 雑誌編（全9巻・A5判上製函入）	《国民文化研 究会所蔵》『学 生生活』『新指 導者』[復刻版]	柏書房	平成 19. 11. 10	総約 4500	揃定価 262,500円 （分売不 可）
日本主義的学生思想運動資料集成 II 書籍・パンフレット篇（全10巻・A5判上製 函入）	《国民文化研 究会所蔵》日本 学生協会・精神 科学研究所刊 行物[復刻版]	柏書房	平成 20. 12. 10	総約 5240	揃定価 299,250円 （分売不 可）

平成の大みうたを仰ぐ 二	国民文化研究会	展転社	平成 20.12.23	262	2,000円
小林秀雄「学生との対話」	国民文化研究会 新潮社	新潮社	平成 26.3.30	205	1,300円
福田恆存「人間の生き方、ものの考え方」	福田 逸 国民文化研究会	文藝春秋	平成 27.2.10	206	1,500円
語り継ごう 日本の思想	國武忠彦他 編著	明成社	平成 27.11.3	414	2,000円
小林秀雄「学生との対話」(新潮文庫)	国民文化研究会 新潮社	新潮社	平成 29.2.1	225	500円
日本のいのちに至る道	小柳陽太郎	展転社	平成 30.2.11	350	2,500円
皇太子殿下のお歌を仰ぐ	小柳左門	展転社	平成 31.4.10	142	1,400円
福田恆存「人間の生き方、ものの考え方」(文春文庫)	福田 逸 国民文化研究会	文藝春秋	令和 元.12.10	207	1,350円
平成の大みうたを仰ぐ 三	国民文化研究会	展転社	令和 元.12.23	294	2,200円
小田村寅二郎 遺稿選集 全五卷 第一巻、第二巻、第五巻	国民文化研究会	アマゾン	令和 4.12.21	188(1巻) 207(2巻) 179(5巻)	1,430円(第1巻) 1,540円(第2巻) 1,430円(第5巻)

## 7. 役員（理事・監事）一覧（令和5年3月31日現在、敬称略）

理事長	小柳志乃夫	（元株日本興業銀行）
副理事長	池松伸典	（若築建設株）
常務理事	山内健生	（元拓殖大学日本文化研究所客員教授）
全	山口秀範	（株寺子屋モデル代表取締役社長）
全	飯島隆史	（本会事務局長・元株りそな銀行）
理事	藤新成信	（日章工業株代表取締役）
全	布瀬雅義	（筑波大学非常勤講師）
全	内海勝彦	（元株IHI）
全	吉村浩之	（株ミュキコーポレーション代表取締役）
全	最知浩一	（株アイセルネットワークス）
全	北村公一	（税理士法人あおぞら）
監事	公文敏雄	（ビジネスアドバイザー）
全	小田村初男	（元皇宮警察本部長）

## 歴代理事長・副理事長 (敬称略)

### 理事長

小田村 寅二郎 (昭和31年～平成11年 物故)  
上 村 和 男 (平成11年～平成26年 物故)  
今 林 賢 郁 (平成26年～令和2年 現顧問)

### 副理事長

川 井 修 治 (昭和31年～昭和50年 物故)  
浜 田 収二郎 (昭和44年～昭和48年 物故)  
寶 邊 正 久 (昭和49年～平成14年 物故)  
小 柳 陽太郎 (昭和49年～平成14年 物故)  
磯 貝 保 博 (平成14年～平成26年 現参与)  
澤 部 壽 孫 (平成20年～令和2年 現参与)

## 顧問・参与 (敬称略)

### 顧 問

小 堀 桂一郎 (東京大学名誉教授)  
竹 本 忠 雄 (筑波大学名誉教授)  
長谷川 三千子 (埼玉大学名誉教授)  
中 西 輝 政 (京都大学名誉教授)

### 参 与 (就任順)

三 宅 将 之 (英語塾経営・元県立岡山芳泉高校教諭・元本会理事)  
東中野 修 道 (亜細亜大学名誉教授・元本会理事)  
國 武 忠 彦 (昭和音楽大学名誉教授・元本会常務理事)  
古 川 修 (元日産自動車㈱・元本会理事)  
小 野 吉 宣 (元福岡県立直方高等学校教諭・元本会理事)  
中 島 繁 樹 (弁護士・中島法律事務所・元本会理事)  
白 濱 裕 (元熊本県立大津高等学校校長・元本会理事)  
酒 村 聰一郎 (福岡県立高等学校講師・元本会理事)



寶 邊 矢太郎 (元山口県立熊毛南高等学校教諭・元本会理事)  
柴 田 悌 輔 (株柴田代表取締役・元本会理事)  
岩 越 豊 雄 (元小田原市立矢作小学校長・元本会理事)  
占 部 賢 志 (中村学園大学客員教授・元本会理事)  
青 砥 誠 一 (湯亭こんや会長・元本会理事)  
稲 津 利比古 (元株竹中工務店・元本会常務理事)  
小 柳 左 門 (学校法人原看護専門学校校長)  
奥 富 修 一 (元東急建設株常務取締役・元本会常務理事)  
伊 佐 裕 (伊佐ホームズ株代表取締役社長・元本会理事)  
久 保 田 真 (熊本県立清流高等学校教諭・元本会理事)

#### 物故された顧問・参与(敬称略)

尾 崎 士 郎 (作家)  
杉 道 助 (日本貿易振興会・理事長)  
河 相 達 夫 (日濠協会・会長)  
花 田 大五郎 (元大分大学・学長)  
真 藤 慎太郎 (元日魯漁業株・副社長)  
金 原 舜 二 (元衆議院議員)  
吉 野 孝 一 (日本団体生命株・相談役)  
藤 井 崇 治 (元電源開発株・総裁)  
安 川 第五郎 (安川電機株・相談役)  
岡 潔 (奈良女子大学・名誉教授)  
迫 水 久 常 (参議院議員)  
萱 場 軍 蔵 (元内務次官)  
進藤武左衛門 (元水資源開発公団・総裁)  
村 田 五 郎 (元内閣情報部部長)  
上 村 健太郎 (元日本道路公団・総裁)  
太 田 耕 造 (亜細亜大学学長・元文部大臣)

清水 重夫 (元和歌山県知事)  
藤山 愛一郎 (元衆議院議員・元外務大臣)  
高木 尚一 (労働科学研究所・常務理事)  
山本 勝市 (経済学博士・元衆議院議員)  
宮崎 正雄 (株文明堂・取締役会長)  
安部 源基 (新日本協議会代表理事・元内務大臣)  
坂 信 彌 (元警視總監)  
長谷川 峻 (衆議院議員・元運輸大臣)  
木内 信胤 (世界経済調査会・理事長)  
福田 恆存 (文芸評論家)  
坂田 道太 (元衆議院議長)  
戸田 義雄 (国学院大学日本文化研究所名誉所員・元本会理事)  
宇野 精一 (東京大学名誉教授)  
加納 祐五 (旧制一高昭信会同人・元日特金属工業(株)常務取締役・元本会監事)  
夜久 正雄 (旧制一高昭信会同人・亜細亜大学名誉教授・元本会理事)  
井尻 千男 (拓殖大学名誉教授)  
小田村 四郎 (元拓殖大学総長・元本会名誉会長)  
長内 俊平 (元電源開発(株)環境立地本部長代理・元本会理事)  
石村 善悟 (株石村萬盛堂代表取締役社長・元本会理事)  
小縣 一也 (元三菱重工業(株)艦艇部主査・元本会理事)